

「令和7年度新規課題公募における行政要請研究テーマ(行政ニーズ)について」プログラム

- ・1テーマあたり3分の説明となります。
- ・グループ内の説明がすべて終了したら5分程度の質疑応答となります。
- ・当日の進行によって多少前後する場合があります。

グループ	開始	終了	領域	テーマ番号	行政要請研究テーマ名	別添資料1頁
	13:00	13:10			概要説明	
A	13:10	13:25	1. 統合	1-1	多様な社会ニーズに応えるための国立公園の新たな統合的な協働型管理運営手法等に関する研究	p.19
				1-2	国際動向を踏まえた、我が国の国家勘定への「自然資本会計」の導入に向けた政策研究	p.19
				1-3	自然公園での自然体験がもたらす健康や健全なこどもの発育などのウェルビーイングに係る評価に関する研究	p.20
				1-4	除去土壌等の県外最終処分に向けた社会受容性の深化に向けた融合研究	p.21
				1-5	東日本大震災での環境再生・復興支援を踏まえた地域共生デザイン手法の開発と他地域への応用研究	p.22
	13:25	13:32			A 質疑応答	
B	13:32	13:44	2. 気候変動	2-2	気候変動によるアジア太平洋地域の損失と損害の予測と日本経済への影響に関する研究	p.24
				2-3	気候変動が感染症に及ぼす影響の評価に関する研究	p.25
				2-1	東アジアにおけるSLCF排出インベントリのMRV(観測・報告・検証)的推計手法による精度向上及び緩和策研究	p.23
				2-4	衛星及び地上観測データを用いた都道府県レベルの温室効果ガス排出量推計と精度評価	p.26
	13:44	13:51			B 質疑応答	
C	13:51	14:06	3. 資源循環	3-1	人口減少・高齢化に対応する持続可能な一般廃棄物処理システムの構築に関する研究開発	p.27
				3-5	廃棄物の排出から処理の段階におけるPFASの管理方法及び処理方法の検討	p.29
				3-2	紙おむつのリサイクル促進を目指したSAP製造の検討	p.27
				3-3	太陽光パネルのシリコン素材に関する実現可能なリサイクル技術の開発	p.28
				3-4	ペロブスカイト太陽電池のリサイクル技術開発	p.28
	14:06	14:13			C 質疑応答	
D	14:13	14:31	4. 自然共生	4-2	三次元情報処理技術等を活用した効率的な登山環境保全支援技術の開発	p.30
				4-12	世界自然遺産地域における持続可能な観光管理手法の開発	p.37
				4-6	世界自然遺産小笠原諸島における動植物の生物多様性と種間相互作用の解明	p.33
				4-9	島嶼における外来ネズミ類の根絶手法の開発及び殺鼠剤の非標的種への影響の解明	p.35
				4-7	ネイチャーポジティブ実現のための自然史研究による生物多様性の実態解明	p.34
	4-8	ネイチャーポジティブ実現のための生物多様性情報の再構築	p.35			
14:31	14:39			D 質疑応答		
E	14:39	14:54	4. 自然共生	4-4	陸水域の絶滅危惧種保全に関する市民活動による自然共生モデルの構築	p.32
				4-5	クマ類と人との軋轢解消と地域個体群の存続を実現する管理方法の開発	p.32
				4-1	絶滅が危惧される淡水魚類における生殖幹細胞を用いた生息域外保全技術の開発	p.29
				4-13	湖沼の健全性や豊かさの評価指標及び持続可能な利活用に向けた情報発信手法に関する研究	p.38
	4-3	外来種の分布拡大先端地域及び未侵入地域等における早期対策推進のための被害予測ツールや、定着地における効果的な防除手法の開発	p.31			
14:54	15:01			E 質疑応答		

「令和7年度新規課題公募における行政要請研究テーマ(行政ニーズ)について」プログラム

- ・1テーマあたり3分の説明となります。
- ・グループ内の説明がすべて終了したら5分程度の質疑応答となります。
- ・当日の進行によって多少前後する場合があります。

グループ	開始	終了	領域	テーマ番号	行政要請研究テーマ名	別添資料1頁	
F	15:01	15:19	4. 自然共生	4-10	バイオサイド等に関する環境リスク評価手法の開発	p.36	
				4-11	実環境中における水生生物に対する化学物質による生態影響の実態把握から原因物質特定までの一連の研究	p.36	
			5. 安全確保	5-1	ヒューマンバイオモニタリングの高効率化に向けた化学分析方法およびばく露物質の推定ツールの開発	p.38	
				5-21	ネイチャーポジティブ達成のための有明海干潟生態系の研究	p.53	
				5-17	有明海における干潟生態系の保全・再生のための新たなモニタリングシステムの構築	p.50	
				5-18	閉鎖性海域(瀬戸内海、伊勢湾等)における海域の栄養塩類等の環境動態の評価	p.51	
	15:19	15:27		F 質疑応答			
	G	15:27	15:45	5. 安全確保	5-8	内分泌かく乱作用に係る影響指向型解析手法の確立に向けた研究	p.43
					5-9	環境中の医薬品が魚類の行動、繁殖等に及ぼす影響の評価手法に関する研究	p.44
					5-11	我が国における騒音と人の健康影響に係る疫学的解析	p.46
5-12					我が国における夜間の騒音暴露の睡眠影響に係る生理指標を活用した解析	p.46	
5-14					車種・音源別に把握できる騒音モニタリングシステムと予測モデルの開発と検証	p.48	
5-5					化学物質リスクの多様化にも対応した持続的な環境監視に資するダイオキシン類分析法の開発	p.41	
15:45		15:53		G 質疑応答			
H	15:53	16:14	5. 安全確保	5-2	マイクロプラスチックの吸入曝露による生体影響を評価する手法の構築に関する研究	p.39	
				5-3	大気汚染物質による健康影響等に係る科学的知見の迅速収集・整理・スクリーニング評価手法の開発	p.40	
				5-4	PM2.5 構成成分の発生源別寄与割合の推計及び推計データを活用した構成成分と健康影響についての疫学研究	p.41	
				5-10	公共用水域における水系感染症にかかる新たな衛生指標等に関する研究	p.45	
				5-25	水道水源から蛇口の水までのPFASの一体的なリスク管理やモニタリング戦略に関する研究	p.56	
				5-26	PFASの物性に基づくモデル予測等を用いた土壌・地下水等における挙動解明と対策技術	p.57	
				5-23	良好な環境の創出に寄与する土壌の公益的機能(炭素貯留、水涵養、土壌生態系等)に関するモニタリング・評価手法の開発	p.54	
	16:14	16:22		H 質疑応答			
I	16:22	16:49	5. 安全確保	5-19	水質の有機汚濁物質の生成・分解機構の解明等及び生活環境の保全に関する水質指標に関する研究	p.51	
				5-24	閉鎖性水域における底層溶存酸素の改善に向けた要因解明及び効果的な対策に関する研究	p.55	
				5-13	現行の大気汚染物質モニタリングを補完する新たな測定手法及びセンサーの開発	p.47	
				5-6	日本版大気質指数(AQI)の検討	p.42	
				5-7	植物由来の揮発性有機化合物(BVOC)の環境大気中における動態把握	p.43	
				5-15	衛星観測による大気汚染物質の測定・解析技術の高度化	p.48	
				5-22	黄砂の数値モデリングの性能向上と黄砂被害の経済影響評価手法の開発、及び発生源対策効果の実証	p.54	
				5-16	持続可能な窒素管理に向けた反応性窒素の排出過程における回収・再利用技術の開発	p.49	
	5-20	良好な環境の創出によるウェルビーイングの向上に資する定量的な評価及び活用方法等に関する研究	p.52				
16:49	17:00		I 質疑応答				